

小学四年

国語

解答と解説

1

問一	①	21
	イ	
	②	22
	ア	
	③	23
	ウ	
問二		24
	イ	

問三	犬	25
	の	
	こ	
	と	
	を	

問四	ウ	26
問五	エ	27
問六	ア	28

問七	④	29
	す	
	っ	
	ぽ	
	ん	
	⑤	30
	ど	
	ん	
	ぐ	
	り	

問八	エ	31
問九	⑥	32
	仕	
	事	
	⑦	33
	ぼ	
	く	
問十	ウ	

2

問一	1	34
	イ	
	2	35
	ア	
	3	36
	エ	

問二	A	37
	森	
	林	
	限	
	界	
	を	
	B	
	ビ	
	タ	
	ミ	
	ン	

問三	も	彼	38
	っ	ら	39
	て	は	40
	い	生	41
	る	肉	
	か	を	
	ら	食	
	。	べ	
		る	
		こ	
		と	
		に	
		誇	
		り	
		を	

		<b>5</b>		<b>4</b>		<b>3</b>							
⑥		①		①		①		問九		問七		問四	
	照		投票		イ		イ	A		①		エ	
	65		60	54		49				45		42	
⑦		②		②		②		氷		②		問五	
	66		61	55		50		B		46		そ	
	軽		光栄		③		③	(音)		ア		う	
	67		62	56		51		飲		問八		と	
⑧		③		④		④		み		ウ		う	
	68		63	57		52		水				な	
	固		機械		⑤		⑤	48				問六	
⑨		④		⑤		⑤						イ ↓	
	69		64	58		53						ア ↓	
	救		害虫		⑥							ウ	
	68		63	59								(音)	44
⑩		⑤											
	浴		薬局										
	69		64										

(配点)

① (問一・七) 各3点、他各5点  
 ② (問一・七) 各3点、(問三) 8点、他各5点 } 計150点  
 ③④⑤ 各2点

【解説】

1 今井恭子「ぼくのがまま宣言！」(PHP研究所) から出題しました。「ぼく」は両親の仕事の都合で、一人、田舎のおばあちゃんの家で暮らすことになりました。友人や都会での暮らしと離れることになっても、「しらけた」気持ちやぬぐえない「ぼく」の心情、両親が「ぼく」のことよりも仕事を優先させているのではないかという思いからくるいらだちの気持ちを読みとみましょう。

問一 A2 関係づけ 知識

A 直前の「春休みはあわただしかった…準備もそこそこに」などの表現から考えましょう。

B 直後に「何かしゃべるとしても」とあることから、「ゲームにふけて(熱中して)」「無言になっていることがわかります。このことから、ここには黙って物事に取り組む様子をあらわす「もくもく」が入ります。

C 直後に「もしかしたら、おばあちゃんが…小さくなるより、ずっと前に買ったものかも」とあることから、スーツのサイズが大きいことが読みとれます。

問二 B1 具体・抽象 比較

母親の「この次」は、「仕事の都合がついたときにでも」の意味で、それがいつになるかは誰もわからないのです。つまり、約束していないのと同じということです。「常に不明」とあることから、いつも約束を破られてきた「ぼく」のあきらめの気持ちを読みとみましょう。

問三 B1 具体・抽象

「夢中になっている」と時がたつのを忘れてしまいます。このような「夢中になっていることがわかる」表現を探すと、問題が出たときは、「時間がまたたく間に過ぎる」「時がたつのを忘れる」「気づいたら…だった」などの表現を探しましょう。

問四 B1 理由 比較

「学校が変わるのは…不安だし、こわいといってもいいくらいだ」とあることから、学校を変わることへの不安があるからこそ、「ぼく」は来ないとわかっている友人を誘っていることがわかります。「ぼく」自身、「和真や勇人との関係も、校外ではゲームをいっしょにする程度」と認識していることから、「信頼できる友人かどうか確かめたい」、エ「ぼく」の不安な気持ちを二人ならわかってくれると信じていた」は不適切です。

問五 A2 知識 比較

「ましてや」はまず程度の極端なものをあげておいて、その場合でさえこうなのだから、それ以外なら言うまでもなく…だ、という風に使う言葉です。

例 彼は音楽に興味がない。ましてや楽譜を読めるわけがない。

問六 B1 理由 比較

線⑤の直前に、「学校が変わるのは…不安だし、こわい…なのに、どうしても今の学校に残っていたという理由もないような気がした」とあることに注目しましょう。「ぼく」は「今の学校」もそこにいる友達にもそれほど執着がないということに気づいています。別れを心底残念がれない、悲しめない自

分に気づき、「しらけ」ているのです。

問七 **A1** 知識

「天と地の差」と同じ意味のことわざとしては、「月とすつぽん」の他に「提灯に釣り鐘」があり、反対の意味のことわざや慣用語としては「どんぐりの背比べ」や「五十歩百歩」があります。

問八 **B1** 推論 知識 比較

「後ろめたい」とは人に悪いことをしたと感じて、申し訳ない気持ちになることです。「やましい」と同じ意味の言葉です。――線⑦を含む一文にある「そんな気持ち」とは「おぼあちゃんと並んで歩くのは、すごく恥ずかしかった」という気持ちだということもおさえておきましょう。

問九 **B1** 関係つけ

「ぼく」が、転校したのも、転校初日にも親につきそってもらえないのも、「両親の仕事のためです」。「ぼく」が腹を立てているのは、両親が「ぼく」よりも「仕事」を優先させていると感じているからです。

問十 **B1** 関係つけ 比較

抜け落ちた文の「その子たち」が誰なのかを考えましょう。「転校していった生徒」ですね。また、文頭に「けど」という逆接のつながりごとがあることにも注意しましょう。

2 椎名誠の「働く子どもたち」(角川書店) から出題しました。

筆者は、世界の厳しい環境の土地で生きる人々の生活のルポルタージュを多く記している作家です。現地の人々の生活や慣習は私たちから見ると奇異に思えるものもありますが、その厳しい環境を知り、人々の生活を偏見を捨てて見つめると、それらは、厳しい環境で生きぬくための知恵であることが分かります。

問一 **A2** 関係つけ 知識

文を接続する言葉は、前後の文の関係をよく確認して入れましょう。《1》の前で「生肉を食べる輩」と、軽蔑して使う言葉が使われています。後で「蔑称(さげすむ)意味もこめられていました」とあるのでここには、言いかえの「つまり」が入ります。《2》の前では「エスキモー」という言葉には蔑みの意味がこめられていることが述べられており、後でカナダなどでは「イヌイット(真の人間という意味)」と呼ばせるようにしている」とあります。「けれど」も入れられないことはありません。ただ後で説明しますが、《3》には「けれど」しか入りません。同じ記号は二度使えませんので、ここは「エスキモーは蔑称ともいえるから」、カナダなどではイヌイットと呼ばせるようにしている」という流れになると考え、「だから」を入れられます。《3》の前ではその仕事が大変と述べ、後で「薬しそくにやっています」とあるので、ここには逆接の「けれど」が入ります。

問二 **B1** 理由 関係つけ

生肉を食べることについては、「生肉、生き血を摂取していること」によって熱でビタミンが破壊されず、植物からのビタミン

ンを撰らなくても健康に生活してきた」と説明されています。植物からビタミンをとらないのは、彼らが住む北極圏は「森林限界をすぎた土地」で、そこには「ビタミンをてつとり早くとる『草』も生えない」からです。

問三 **B2** 理由 具体・抽象

直後に「生肉を食べることに誇りをもっているのです。」とあり、彼らがエスキモーと呼ばれることを受け入れている理由が示されています。「生肉が好き」と堂々と述べているところを指して「誇りをもっている」と筆者は解釈しているのです。理由を聞かれているので、文末の表現にも気をつけて答えるようにしましょう。

※ 設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点3点とします。

問四 **B1** 理由 比較

直前に、北極圏のような「森林限界をすぎた土地」で生肉を食べるのは、「健康に生活」するためだと示されています。彼らが生肉を食べるのは、そのような厳しい環境の土地では理にかなったものだということから考えましょう。

問五 **B1** 具体・抽象 関係づけ

直後の段落で、狩りの「現場では体力のある若者が主役」である理由が示されていますので、ここからカリブー猟がどんな仕事なのか書かれた部分を探しましょう。

問六 **B1** 関係づけ 比較

並べ替えの問題では、接続語や、指示語（こそあど言葉）に注目しましょう。この問題の場合は、イの「そのとき」、ウの「それら」は夏だけに生える植物がヒントになります。イの「そのとき」はカリブーを解体して生のままで食べる時を指していますから、イは⑤の最初にくると考えられます。ウの「それら」はアの「コケや雑草」を指していますので、アの後にきます。

問七 **A2** 知識

① 述語は「ザラです」です。何が「ザラ（めずらしくない）こと」なのかと考えると、「家畜の世話をしていること」ですから、答えはエ。「〜では」「〜には」は主語にはなりませんので、注意してください。

問八 **B1** 具体・抽象 比較

「リサイクル」とは、いらなくなったものを再利用するということですから、「燃料の完全リサイクル」とは、集めた動物の糞を乾燥させて燃料にしていることを指すと考えられます。

問九 **B1** 具体・抽象

線⑧の仕事は、「川から飲み水を得る」仕事だということを押さえておきましょう。凍った川から飲み水を得るので、**A**には「氷」が入ります。

3

A1 知識

かなづかいの問題です。  
基本的に、「鼻血（鼻十血）」「入れ知恵（入れる十知恵）」の  
ように、二語が結びついてできた語については、「はなぢ」「い  
れぢえ」と表記しますが、「世界中（世界十中）」は例外的に「せ  
かいじゅう」と書きます。

4

A1 知識

物の数え方の問題です。

- ③ はさみは一丁、二丁と数えます。豆腐だけでなく、鉄砲も  
一丁、二丁と数えます。
- ⑥ イカは一杯、二杯と数えます。